

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 460

所管部局	農林商工部	所管課	商工観光課	担当者名	大谷 洋史
事業名	内水面漁業振興対策事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	内水面漁業振興対策事業			政策体系	246
会計	一般会計	科目	6.農林 - 3.水産 - 1.水産		

1. 事業の概要

清流での釣りの観光入込客を増加させるとともに食材等の提供により観光振興を図るため、漁業協同組合が、アユ、アマゴ、ウナギなどの稚魚を放流し、水産資源の増殖を図る事業に対し支援する。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

漁業振興のため、河川へ稚魚の放流し内水面漁業の振興を図るための事業。特に美山川は観光漁業としての側面が強い。水産資源の増強により釣客を増やし、「観光入込客数200万人」達成の手段とする。

②事業を実施する必要性

市内河川の水産資源保護及び増殖を図ることにより、その資源の持続的利用を行いつつ河川生物の多様性・水環境の維持等の環境保全に資するため、各漁協の種苗放流を支援する。
(種苗放流は第5種共同漁業権免許が必要である。)

3. 事業費の推移

		単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額		千円	17,048	17,476	14,739	14,586	13,674	14,740	14,740
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等		千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	5,847	6,186	5,439	5,292	5,292	5,847	5,847
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	11,201	11,290	9,300	9,294	8,382	8,893	8,893
職員等の従事人員		人/年	—	—	0.24	0.10			
人件費		千円	—	—	1,854	752			
事業費総額		千円	—	—	16,593	15,337			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

美山漁業協同組合	12,622,000円
大堰川漁業協同組合	1,607,000円
上桂川漁業協同組合	352,000円

5. 事業結果の概要

あゆ放流他
美山川 760,000尾
上桂川 63,000尾
大堰川 125,400尾

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 美山川種苗放流		
あゆ、ふな、うなぎ、あまご、はえ、ごり	平成21年4-平成22年3月	760,000尾放流
(2) 上桂川種苗放流		
あゆ、ふな、うなぎ、あまご、はえ、ごり	平成21年5-11月	63,000尾放流
(3) 大堰川種苗放流		
あゆ、ふな、うなぎ、あまご、ます類	平成21年5-11月	125,400尾放流

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

豊かな河川環境を守り、種苗放流による水産資源の増殖を図ることは、観光入込客の増加と水産資源の利活用による地域経済の活性化に繋がり、漁業協同組合の行う事業に対する支援は有効であった。
但し、市として財政厳しい中で補助金の削減により、水産業の振興、地域経済の発展を助長する市の事業目的が達成できるのかが検討課題である。
また、少子高齢化が進み、豊かな河川環境の維持・保全を担う漁業協同組合等の組織の弱体化に対し行政としての支援のあり方が課題である。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
水産資源の増殖を図る為には、清流を守り、豊かな河川環境を守る取り組みの必要性について議論した。
- ②当該事業のアピール事項
水産資源の増強により、観光入込客を増やし地域の活性化を図る。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
資源の持続的利用を行いつつ河川生物の多様性・水環境の維持等の環境保全に資する。